

保健テキストと健康関心に関する研究

—大学の場合—

大塚正八郎 藤沢邦彦 野村良和
野津有司*

A Study on the Textbooks of Health Education and on the Health Concerns of University Students

Shohachiro OTSUKA, Kunihiro FUJISAWA, Yoshikazu NOMURA
and Yuji NOZU*

The forty health education textbooks used at the university level and the health concerns of the university students (816 men and 324 women) were investigated at the same time.

Eleven content areas of health education classified by the National Conference on College Health Education were defined for this investigation. And as to health concerns, the students were asked to select the areas of their particular concerns from them.

The results of the investigation were as follows:

I. The analyses on the textbooks of health education

- 1) Among the textbooks examined, they differed greatly in many ways (the title, the number of authors, the number of pages and etc.).
- 2) There is a tendency that the areas about "Health Administration", "Living in Youth" and "Nutrition and Living" were written more but the areas about "Safety Administration", "City and Living" and "Growth and Development" were written very little.

II. The health concerns of the university students

- 1) Male students indicated their interest in the areas about "Mental Health" and "Health Administration" while female students pointed out the area about "Living in Youth". However as the uninterested areas, many of them pointed out the areas about "Concept of Health" and "Safety Administration".
- 2) As the areas that they should study, many male students listed the areas about "Health Administration" and "Mental Health" but many female students pointed out the areas about "Health Administration" and "Nutrition and Living".
- 3) As the areas that should be studied in depth, many of them gave the areas of "Health Administration" and "Environment and Living".
- 4) As the areas related to some social problems, many of them pointed out the areas about "Security and Welfare" and "Environment and Living".

III. From the standpoint of the content areas of the textbooks and the health concerns of the students, there was a tendency to emphasize "the personal health" areas too much.

In order to achieve the purpose of health education at the university level, more information about "City and Living", "Security and Welfare" and "Concept of Health" should be covered.

* 筑波大学大学院修士課程体育研究科 (Master's Program of Physical Education, The University of Tsukuba)

1. 序 論

大学における保健教育は、昭和31年の大学設置基準によって、保健体育科目「講義及び実技4単位」の中に位置づけられ今日に至っている。

その大学保健教育のねらいは、大学生自身の健康管理に役立たせること、将来社会に出て指導的立場につく者が多い事を考慮して、健康面でのオピニオンリーダーを養成すること、いかなる専攻分野の学習・研究においてもまず人間の健康を優先させなければならないことを認識させること、などがあげられている。

このようなねらいを十分に達成するためには、いわゆる保健教材の詳細な検討と学習者である大学生のもつ健康関心等の特性の把握などが必要不可欠である。

しかし、ほとんどの大学あるいは学部において、保健教材の選択やその教授法について、各講義担当教官に任されているため、それぞれの保健教材を正確に掌握し検討することは困難である。

そこで、講義担当者が保健教育を実施するにあたり準備したテキストに着目すると、テキストは教材そのものを示しているとは言えないまでも、かなり教材にそって、教授上必要な事項が記載されていると考えられる。

この大学保健教育のテキストは、現在かなり多数出版されているが、我国における発行状況（種類や数）は明らかになっていないばかりか、この種のテキストはある程度限定された範囲でしか使われていないこともあって、今日までほとんど比較検討されていない。

我々は、まずこれらの大学保健教育のテキストの幾つかを分析することによって、それぞれの編集者・著者が意図している保健教材の概略、大学保健教育のねらいとの関連、学習者の健康関心に対する配慮などを明らかにすることを試みた。しかし、大学生の健康関心について、保健教材と関連づけて明らかにされた例がないため、我々は新たに、大学生を対象に保健教材に関わる関心調査を実施し、その結果をテキストの分析結果と合わせて検討した。

2. 研究方法

本研究は以下の3段階に分けて行なった。

(1)テキストの分析

関東地区に所在する大学および学部で最近数年

Table 1. List of Analyzed Textbooks

No.	Title	Publisher
1	保健概論	新思潮社
2	保健衛生	南江堂
3	体育と保健の理論	黎明書房
4	保健体育概論	南江堂
5	大学保健体育	新思潮社
6	保健入門	南山堂
7	大学教養の保健	南山堂
8	新保健衛生	篠原出版株式会社
9	保健体育概論	科学書院
10	保健衛生	大学出版社
11	保健体育	道和書院
12	保健理論	犀書房
13	心身保健学	日本文化科学社
14	保健体育提要	体育の科学社
15	健康概論	新思潮社
16	大学の保健体育	福村出版
17	女子の保健体育	芸林書房
18	保健体育教程	技術書院
19	大学保健体育の理論	医歯薬出版株式会社
20	保健・体育	体育の科学社
21	保健体育理論	東海大学出版会
22	保健衛生	慶応通信株式会社
23	大学保健体育理論	東京数学社
24	保健理論	犀書房
25	保健体育概論	山文社
26	保健教育	有信堂
27	女子の保健体育	廣川書店
28	保健理論概説	犀書房
29	保健体育資料	東京大学出版会
30	女子保健体育	協同出版
31	保健衛生学	杏林書院
32	女子と健康	犀書房
33	体育・公衆衛生学要綱	廣文社
34	衛生理論	弘学出版
35	体育	東京教学社
36	最新基礎体育学	文化書房
37	健康に生きるために	学建書院
38	保健衛生	犀書房
39	大学の女子体育	地球社
40	保健理論	ぎょうせい

間に亘り使われている保健テキストを入手可能な範囲で集め、書名が「公衆衛生学」「衛生統計学」等、専門領域に片寄せたものを除外し、残った表1の40種について分析した。分析は「領域別記載量」のほかに「書名」「編集者・著者」「体育理論との関連」「発行・改訂状況」「定価」などについても行なった。領域別記載量の分析に用いた領域分類は、現体育連合の前身である大学保健協議会の保健部会のメンバーが中心になって組織している大学保健教育研究会の分類を用いた。(表2)

Table 2. Health Areas by NCCHE*

No.	Area
1	Concept of Health (健康観)
2	Growth and Development (発育と発達)
3	Structure and Function of Human Body (人体の構造と機能)
4	Nutrition and Living (栄養と生活)
5	Environment and Living (環境と生活)
6	Living in Youth (青年期の生活)
7	Mental Health (精神衛生)
8	Health Administration (健康管理)
9	Safety Administration (安全管理)
10	City and Living (都市と生活)
11	Security and Welfare (保障と福祉)

* National Conference of College Health Education

(2)健康関心の調査

健康関心を、「自分が興味を持っている領域」「自分をもっと学習しなければいけないと思っている領域」「社会的にもっと研究が必要と思う領域」「社会的にもっと施策が必要と思う領域」をそれぞれ5領域ずつ、選択肢から選ばせる方法に

よって調査し、検討した。なお、選択肢はテキスト分析と同じ大学保健教育研究会の領域分類を用いた。調査対象は、保健教育受講前の大学1年生で、文科系学生514名(男子421名・女子93名)、理科系学生男子173名、体育系学生453名(男子222名・女子231名)、合計1140名(男子816名・女子324名)である。

(3)テキストと健康関心等の関連

テキストの領域別記載量と健康関心の状況を大学保健教育のねらいとも関連づけて検討した。

3. 結果並びに考察

(1)テキストの分析結果

①テキストのつくりの実態

- a) 書名：「保健体育」の文字を含めた書名のテキストが最も多く17種あり、次いで「保健衛生」の文字を含めた書名が6種であった。いずれも、文字を少しずつ変えて同じ書名にならないよう工夫がなされていた。
- b) 構成の形式：40種のうち38種までが教材解説型もしくはそれに近いタイプであり、教材領域別の資料集型の構成になっていたのはNo. 22の「保健衛生」とNo. 29の「保健体育資料」の2種であった。
- c) 編集者・著者：1人の著者によるものが12種、2～5人の編集者によるものが9種、6～9人が8種、10人以上が10種、不明が1種で、最高はNo. 25の「保健体育概論」で97名もの氏名が連なっていた。1人の著者によるテキストは、医学的内容に片寄っているものと、広く体育理論にまで亘っているものと、両極端の特徴がみられた。
- d) 体育理論との関連：保健と体育理論の両方が一冊のテキストにまとめられているものと、保健だけのものは各々20種ずつであった。保健と体育理論が一冊に記載されているものには、保健篇と体育篇において記載しているものと、保健と体育を内容的に混合して記載しているものがあつたが、どちらも体育に比して保健領域の占める割合が少ない傾向にあり、No. 35の「体育」では保健領域はわずか206ページ中36ページしか記載されていなか

った。

e) 発行・改訂状況：発行時期が不明なものが4種あり、さらに改訂の状況が明確に記載されていないものが7種あった。No. 7の「大学教養の保健」は初版が昭和35年に出て以来一度も改訂されないまま発行されていた。

f) 定価・装丁：No. 22の「保健衛生」が非売品扱いになっている他は、450円のNo. 10「保健衛生」から1800円のNo. 15の「健康概論」以内であった。装丁は、いわゆる教科書的な装丁のものから、必要以上と思われる程立派な装丁のものまでさまざまであり、判の大きさはすべてがB5判であった。総ページ数は最少No. 9「保健体育概論」の100ページから最多No. 36「最新基礎体育学」の368ページまでであった。

以上のような結果から、保健テキストのつくりは、多様性に富んでいるといえるが、その多様性の多くが大学保健教育のねらいを達成する手段の相違から生じたものとは考え難く、出版社の採算、

編集者や著者の都合、設置基準の枠などが原因で生じたものと思われる。

②領域別記載量

表3は40種のテキストの記載内容を領域別に分類し、それぞれの記載量を百分率によって示している。

保健領域のみ記載のテキストも体育理論を含むテキストも、「健康管理」がもっとも多く記載されており、その具体的内容はいずれのテキストも疾病に重点がおかれ、疾病管理的な内容の傾向が強い。健康獲得のためには疾病の管理が重要な条件であるが、この傾向はテキストの編集者・著者に医師が多いこととも密接な関連があると考えられる。

続いて多く記載されている領域は「栄養と生活」「環境と生活」「人体の構造と機能」であり、いわゆる健康科学の中でも基礎的な領域が占めて

Table 3. Described Proportion of each Health Areas

Area No.	A*	B**	Total
1	4.5%	7.1%	5.3%
2	2.9	1.2	2.3
3	6.6	7.6	6.9
4	12.3	8.1	11.0
5	7.4	6.5	7.1
6	20.2	19.7	20.0
7	5.2	7.0	5.8
8	20.6	21.6	20.9
9	1.6	1.4	1.5
10	1.7	1.5	1.7
11	5.5	4.7	5.3
12***	6.1	10.3	7.4

* Textbook of health education
 ** Textbook of health and physical education
 *** Another areas

Table 4. Health Concerns (1)
 —Interested Areas—

Area No.	Male			Female	
	L. C.*	P. C.**	S. C.***	L. C.	P. C.
1	18.8%	18.5%	9.3%	14.0%	22.1%
2	23.0	33.8	17.9	24.7	51.1
3	43.2	50.5	48.6	41.9	50.7
4	36.6	57.2	40.5	45.2	54.1
5	46.8	49.6	52.0	46.2	45.9
6	64.4	50.0	59.1	49.7	64.5
7	62.0	57.2	69.4	69.9	58.0
8	50.1	68.5	68.2	44.1	59.3
9	19.2	28.8	22.0	8.6	11.7
10	37.5	23.0	27.2	31.2	9.5
11	41.3	32.4	40.5	55.9	39.4
N=	421	222	173	93	231

* Literary Course
 ** Physical Education Course
 *** Science Course
 (They pointed out 5 interested areas from 11 areas.)

いる。WHOの健康の定義に示されている「精神的健康」に「精神衛生」、「社会的健康」に「都市と健康」「保障と福祉」の領域はあまり多く記載されていない。また、「安全管理」の領域がもっとも記載されていないが、国民の死因の中で不慮の事故が占める割合が増大しつつある現状を考えると問題である。

(2)健康関心の実態

①興味を持っている領域

大学生が興味を持っている領域は、指導者側にとれば動機づけの面などで都合がよいものであり把握される必要がある。表4は大学生が興味を持っている保健領域を、専攻別・男女別に示している。全般的には「青年期の生活」「精神衛生」「健康管理」の領域に対する興味が高く、逆に「安全管理」「健康観」「発育と発達」「都市と生活」の領域は興味が低いといえる。男女別にみると、興味の持たれている領域に大差がないといえる。しかし、専攻別にみた場合、かなり専攻毎

に特徴がみられる。

②学習の必要を感じている領域

大学生が学習の必要を感じている領域には自らがそのように感じている場合のほか、教えられてそのように感じている場合もあるが、いずれも指導上その実態が把握されなければならないものである。表5は大学生自身が学習の必要を感じている保健領域を専攻別・性別に示している。全般的には、興味を持っている領域と非常によく似た傾向を示しており、専攻別や性別に関係なく「健康管理」がもっとも学習の必要性が感じられている領域である。次いで、「栄養と生活」「青年期の生活」「精神衛生」「環境と生活」が高い割合を示している。全般に、あまり学習の必要が感じられていない領域は「健康観」「発育と発達」「安全管理」「都市と生活」の領域である。

③研究の必要を感じている領域

社会的な面で、研究が遅れていると大学生が感じている領域を考慮した指導は、今後の健康科学

Table 5. Health Concerns (2)
—Areas of Learning need—

Area No.	Male			Female	
	L. C.	P. C.	S. C.	L. C.	P. C.
1	21.1%	21.6%	12.1%	25.8%	35.1%
2	20.0	34.7	11.0	12.9	40.7
3	34.2	55.9	37.6	32.5	53.7
4	56.3	62.2	52.6	53.8	57.6
5	52.0	42.3	51.5	51.6	37.7
6	57.2	37.8	46.8	60.2	47.6
7	59.4	60.8	64.7	52.7	56.7
8	65.6	80.2	74.0	69.9	71.4
9	24.9	43.7	28.9	26.9	26.0
10	29.9	13.1	30.6	22.6	12.1
11	34.7	25.7	39.9	45.2	35.5
N=	421	222	173	93	231

(They pointed out 5 areas of learning need from 11 areas.)

Table 6. Health Concerns (3)
—Necessity Areas of Research—

Area No.	Male			Female	
	L. C.	P. C.	S. C.	L. C.	P. C.
1	16.4%	11.3%	13.9%	24.7%	32.0%
2	16.9	15.3	9.3	9.7	14.3
3	22.6	15.3	24.9	18.3	19.5
4	39.0	43.7	30.1	43.0	47.2
5	55.3	63.5	61.9	73.1	61.9
6	29.5	21.6	15.0	16.1	23.4
7	54.6	60.8	58.4	47.3	44.2
8	58.0	64.0	55.5	62.4	66.7
9	40.6	44.6	37.0	40.9	42.9
10	43.9	40.5	48.0	37.6	30.7
11	51.3	53.6	64.2	52.7	48.9
N=	421	222	173	93	231

(They pointed out 5 necessity areas of research from 11 areas.)

の発展にとって必要なことである。表6は大学生が社会的に研究の必要があると感じている保健領域を専攻別・性別に示している。全般には「環境と生活」「健康管理」「保障と福祉」の領域が多くあげられており、「健康観」「発育と発達」「人体の構造と機能」「青年期の生活」が少なかった。

④施策が必要と思う領域

社会的な面で施策に対する学生のニーズを把握し、指導に生かすことは、今後の保健方策を考えていくうえで、必要なことである。

表7は、大学生が施策が必要と思う領域を専攻別・性別に示している。全般的には、「環境と生活」「保障と福祉」が多くあげられており、次いで「健康管理」「安全管理」「都市と生活」があげられている。

(3)領域別検討

①健康観

「健康観」の領域は、この領域を記載しているテキストによれば、学習者に健康の意義を理解させ、自らが積極的に健康を獲得していこうとする意欲を持たせるうえで、欠くことのできない領域であり、生命尊重の理念に基づいた健康観が保健教育全領域の基礎として位置づいている。

しかし、学習者である大学生のこの領域に対する関心は表8に示す通り全般的に高いとはいえない。特に、理科系男子学生に関心が持たれていないことは、いわゆる思想のない科学技術の習得や研究に結びつくおそれがあり、注目に値する。体育系女子学生は他のどの学生群よりもこの領域に

Table 7. Health Concerns (4)
—Necessity Areas of Policy—

Area No.	Male			Female	
	L. C.	P. C.	S. C.	L. C.	P. C.
1	20.7%	17.1%	15.6%	9.7%	14.7%
2	12.6	8.1	6.9	6.5	9.1
3	15.0	9.9	8.1	6.5	14.3
4	35.6	40.1	30.6	41.9	35.9
5	56.1	66.2	61.3	74.2	61.9
6	29.5	25.7	15.0	16.1	19.5
7	42.0	46.9	52.6	41.9	45.9
8	53.7	54.1	43.4	52.7	56.3
9	46.6	46.9	52.6	48.4	46.3
10	51.8	48.2	55.5	47.3	45.5
11	61.5	62.6	76.9	71.0	68.0
N=	421	222	173	93	231

(They pointed out 5 necessity areas of policy from 11 areas.)

多く関心を示しており、体育という専攻領域に健康観が結びついている望ましい傾向といえる。

一方、テキストにおけるこの領域の扱いは、全記載量の10~20%を費しているものが4種、10%以下が32種、全く触れていないものが4種であった。この領域は、高等学校までの保健科教育にお

Table 8. Health Concerns to "Concept of Health"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	18.8%	14.0%	18.5%	22.1%	9.3%
Learning*	21.1	25.8	21.6	35.1	12.1
Research**	16.4	24.7	11.3	32.0	13.9
Policy***	20.7	9.7	17.1	14.7	15.6

* Learning need

** Necessity of research

*** Necessity of policy

いてもむずかしすぎるなどの理由から強調されていない領域でもあり、大学生があまり関心を持っていないことを考えあわせると、大学保健教育において特に力が注がなければならない領域であり、テキストにその姿勢がより示されなければならないと考える。

② 発育と発達

この領域では、人間の発育発達過程を理解させ、生涯における大学生の身体的・精神的実態をとらえさせようとしている。さらに幼小児の十分な発達のために必要な保護、教育についても理解を深めようとしている領域である。

大学生のこの領域に対する関心は表9の通りである。理科系(男子)の関心は低く、体育系(特に女子)の学生の関心が高い。いずれの学生群も、発育発達を個人的な側面から関心の有無を答えているが、WHO保健憲章にうたわれているような、社会が子供たちの十分な発育発達を理解していくことについての関心は高くないといえる。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量は、

全体の10~20%に亘って記載しているテキストが3種、10%以下が8種、記載していないテキストが29種であり、全体に記載量が少ないといえる。これはこの領域の学習が大学以前に完了すべきもの、しているものという考えに基づくものであろうが、人間の一生涯の身体的・精神的状況の把握を分断することなく学習させることも大切であろう。

③ 人体の構造と機能

この領域は、基礎的な領域であり、ある程度理解されていなければ他の保健領域を学習することすらできない。しかし、大学以前に理科などですでに学習している部分もある反面、深く追求していけばきりが無い程、内容が多い領域でもある。

大学生のこの領域に対する関心は表10の通りである。体育系の学生が男女とも興味や学習ニーズの面で高い関心を示しているが、文科系ではやや低い。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量は全体の40~50%に及ぶものが1種、20~30%が1種、

Table 9. Health Concerns to "Growth and Development"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	23.0%	24.7%	33.8%	51.1%	17.9%
Learning	20.0	12.9	34.7	40.7	11.0
Research	16.9	9.7	15.3	14.3	9.3
Policy	12.6	6.5	8.1	9.1	6.9

Table 10. Health Concerns to "Structure and Function of Human Body"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	43.2%	41.9%	50.5%	50.7%	48.6%
Learning	34.2	32.3	55.9	53.7	37.6
Research	22.6	18.3	15.3	19.5	24.9
Policy	15.0	6.5	9.9	14.3	8.1

10～20%が5種、記載していないものが29種であった。最も記載量の多かったのは No. 21 の「保健体育理論」で著者自身の専門領域を大幅に取り入れていたが、大学の一般教養としての保健教育という点から考えると特定の専門領域に片寄りすぎているといえよう。

④栄養と生活

この領域は、健康状態を左右する条件の中でも重要であり、食品が豊富であり、食生活がかなり個人の意志によって為されている大学生の生活や将来の家庭を考えると適切な指導が必要であろう。

大学生のこの領域に対する関心は表11の通りである。体育系の学生が男女とも高い関心を示しており、理科系・文科系に差はほとんどみられない。いずれの学生群においても興味より学習ニーズが高くなっている傾向がある。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量は全体の30～40%に亘って記載しているのが2種、20～30%が3種、10～20%が12種、10%以下が17種、

記載していないのが6種であった。学生の学習ニーズが比較的高いにもかかわらず、全く記載していないテキストがあったり、逆に学生のニーズが高くてもテキスト全体の30%以上も記載しているのは好ましくないといえよう。

⑤環境と生活

この領域も健康科学において基礎的な領域であり、保健教育において欠くことのできない領域である。特に最近の疫学的な健康のとらえ方を理解させるうえで適切な指導がなされなければならない。

大学生のこの領域に対する関心は表12の通りである。全般に関心が高いことが指摘されるが、興味は理科系学生がやや高く、学習ニーズは体育系学生が男女ともやや低い。研究や施策の必要性を感じている者はいずれの専攻、性別においても多いが、文科系の男女間に差がみられ、女子の方が男子を上回っている。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量はテキスト全体の20～30%が3種、10～20%が8種、10%

Table 11. Health Concerns to "Nutrition and Living"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	36.6%	45.2%	57.2%	54.1%	40.5%
Learning	56.3	53.8	62.2	57.6	52.6
Research	39.0	43.0	43.7	47.2	30.1
Policy	35.6	41.9	40.1	35.9	30.6

Table 12. Health Concerns to "Environment and living"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	46.8%	46.2%	49.6%	45.9%	52.0%
Learning	52.0	51.6	42.3	37.7	51.5
Research	55.3	73.1	63.5	61.9	61.9
Policy	56.1	74.2	66.2	61.9	61.3

以下が15種、記載していないのが14種であった。記載しているテキストの環境領域の扱いは物理化学的な側面が多く、社会文化的な扱いが少なく、さらに個人衛生的な内容が多くみられた。環境は関連分野が広く、まとまりにくい領域であるが、それだけに保健教育の場やテキストにおいて適切な理解の仕方を提示すべきであろう。

⑥青年期の生活

この領域は大学生の生活に直接結びついた領域であり、実践的な応用領域である。

大学生のこの領域に対する関心は表13の通りである。興味と学習ニードの点で全般に高い傾向を示しているが、学習ニードよりもやや興味の方が上回っている。社会的な研究や施策の必要性はあまり強く感じられていない。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量は、テキストの40~50%記載が1種、30~40%が9種、20~30%が9種、10~20%が15種、10%以下が3種、記載なしが3種であり、他の領域に比して記載量が多い。また各テキストにおけるこの領域の

扱い方にかなり幅があり、中には実用書あるいは手引書の内容になってしまっているものもみられたが、きちんとした科学的認識のうえにたつ実践について学習されることが大切であり、興味本位の保健教育内容に終わらせてはならない。

⑦精神衛生

精神衛生は健康成立条件である身体的・社会的健康と共に指導上欠くことのできない領域である。従来は精神障害を中心とした内容が多く記載されていたが、最近では心の健康として広く扱われてきている。

この領域に対する学生の関心は表14の通りである。いずれの専攻・性別においても関心が高い傾向にある。また興味や学習ニードの個人的関心の高い領域であると同時に研究や施策の必要性を感じている領域でもある。

一方、テキストにおけるこの領域の記載量は、テキストの20~30%が2種、10~20%が7種、10%以下が15種、記載していないものが16種であった。全般に記載量が少ないことは、学生の関心

Table 13. Health Concerns to "Living in Youth"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	64.4%	59.1%	50.0%	64.5%	49.7%
Learning	57.2	60.2	37.8	47.6	46.8
Research	29.5	16.1	21.6	23.4	15.0
Policy	29.5	16.1	25.7	19.5	15.0

Table 14. Health Concerns to "Mental Health"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	62.0%	69.9%	57.2%	58.0%	69.4%
Learning	59.4	52.7	60.8	56.7	64.7
Research	54.6	47.3	60.8	44.2	58.4
Policy	42.0	41.9	46.9	45.9	52.9

と逆の傾向であると共に健康について精神衛生を重視しない片寄った指導になることが懸念される。精神衛生に関する指導は学習内容および指導法においてまだ未整備の点が多いといわれているが、早急に改善されなければならないと考える。

⑧健康管理

この領域は現在のところ疾病対策を中心とした領域であり、かつての伝染病に代って、成人病がその中心になっている。疾病管理的な内容に加えて健康増進や豊かな生活につながるような積極的な健康管理についての記載はまだ多くない。単に生物学的に疾病を理解させることはある程度可能かもしれないが、人間が個人として集団として実践しなければならぬ、疾病対策は無限といえる程多く、それをいかに合理的に取扱うかが、指導者あるいはテキストに要求される点であろう。

この領域に対する学生の関心は表15の通りである。全般に関心が持たれているが、興味点では、体育系・理科系の学生が文科系の学生に比してやや高い。学習ニードはいずれの専攻・性別においても興味を上回って高くなっている。また他領域

に比して、研究の必要がいずれの学生にもより強く感じられている傾向もみられる。

一方、テキストにおける記載量は、50%以上に亘って記載しているのが2種、40~50%が1種、30~40%が6種、20~30%が11種、10~20%が12種、10%以下が2種、まったく記載されていないのが6種であった。他のどの領域よりも各テキストにおける記載量にばらつきがみられ、記載量が多いテキスト程医学専門的傾向が強くなり、編集者・著者も医師が多かった。病気でなければ健康というような古い考えの指導者はいないと思うが、あまり疾病管理に力を注ぐのは新しい健康観を築く妨げとなるであろう。

⑨安全管理

この領域はとくに人為的な不慮の事故に対応していくための領域であり、安全教育の内容をも含んでいる。この領域が保健教育の一領域であるかどうかという議論もあるが、他に指導する機会がないうえ、健康障害に対処するための教育と考えられるならば保健教育の一領域といえる。

この領域における学生の関心は表16の通りであ

Table 15. Health Concerns to "Health Administration"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	50.1%	44.1%	68.5%	59.3%	68.2%
Learning	65.9	69.9	80.2	71.4	74.0
Research	58.0	62.4	64.0	66.7	55.5
Policy	53.7	52.7	54.1	56.3	43.4

Table 16. Health Concerns to "Safety Administration"

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	19.2%	8.6%	28.8%	11.7%	22.0%
Learning	24.9	26.9	43.7	26.0	28.9
Research	40.6	40.9	44.6	42.9	37.0
Policy	46.6	48.4	46.9	46.3	52.6

る。全般に関心が低く、どちらかといえば、個人の問題としてではなく社会の問題としてとらえている傾向がみられる。また、いずれの専攻・性別においても、興味よりも学習ニーズが高く、研究よりも施策が必要とより強く感じられる領域となっている。

テキストにおける記載量は、10～20%が1種、10%以下が11種、記載なしが28種であり、指導者側にも安全管理に対する関心が低いことが指摘される。具体的指導内容に乏しい領域ともいわれるが、この領域の指導に対する社会的ニーズは増大しつづけると考えられる。

⑩都市と生活

この領域は、生活環境としての都市問題を扱う領域であり、地域住民としての自覚を養ううえで必要な領域といえる。

この領域に対する学生の関心は表17の通りである。興味の点では体育系女子が非常に低く、文科系の男女が高い値を示している。学習ニーズは体育系の男女がともに低い。また研究と施策の必要性については、いずれの学生群も施策の必要性を

多く指摘している。

一方、テキストにおける記載量は、10%以下が16種、記載なしが24種であり、都市環境のような社会的問題に対する配慮が少ない傾向がみられる。

⑪保障と福祉

この領域は国民の健康の権利がいかに守られるべきかを理解し、国民の1人として協力する精神を養おうとするものである。

この領域に対する学生の関心は表18の通りである。いずれの専攻・性別の学生群においても同じ傾向の関心を示しており、興味が学習ニーズを上回っており、さらに研究よりも施策が必要とより多くの者が感じている。特に施策の必要性については、「環境と生活」と並んでより多くの者が指摘している。

一方、テキストの記載量は、30～40%が1種、20～30%が1種、10～20%が5種、10%以下が14種、記載なしが19種であり、数種のテキストを除いて記載量が少なく、学生の社会的関心に答えられないテキストが多いといえる。

Table 17. Health Concerns to “City and Living”

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	37.5%	31.2%	23.0%	9.5%	27.2%
Learning	29.9	22.6	13.1	12.1	30.6
Research	43.9	37.6	40.5	30.7	48.0
Policy	51.8	47.3	48.2	45.5	55.5

Table 18. Health Concerns to “Security and Welfare”

Concern	L. C.		P. C.		S. C.
	Male	Female	Male	Female	Male
Interest	41.3%	55.9%	32.4%	39.4%	40.5%
Learning	34.7	45.2	25.7	35.5	39.9
Research	51.3	52.7	53.6	48.9	64.2
Policy	61.5	71.0	62.6	68.0	76.9

⑫その他の領域

大学保健教育研究会による領域分類にあてはまらないその他の領域として人口問題や国民保健の動向などがあり、その記載量をみると、テキストの30～40%に亘っているのが1種、20～30%が2種、10～20%が15種、10%以下が13種、記載なしが14種であった。

4. 結 論

大学保健教育のテキスト40種を分析すると共に、大学生の健康関心の実態を調査し、その関連について検討した結果、次のような結論を得た。

(1) 大学保健教育のテキストのつくりは多様性に富んでいたが、その多様性の多くは、大学保健教育のねらいを達成する手段の相違によるものではなく、出版社、編集者、著者等の都合や大学保健教育の法的位置づけの都合で生じたものと思われる。

- (2) 大学保健教育テキストの内容領域は、個人衛生的、医学的内容が多く記載されており、社会文化的な保健領域の記載が少ない傾向にあった。
- (3) 大学生の健康関心は、興味や学習ニーズの点では個人の健康管理的内容の領域に関心が高く、社会的な保健領域に対して、研究や施策の必要性を感じている者が多かった。
- (4) 大学生の健康関心の実態とテキストの状況の関連をみると、大部分の大学保健教育のテキストが学習者である大学生の健康関心を十分に考慮して作成されているとはいえない傾向にあった。
- (5) 分析した大学保健教育のほとんどのテキストにおいて、記載内容からそれぞれのテキストが目指している大学保健教育のねらいを把握することは困難であった。